

- 気づき事例拡充・データベース化 -

ITコーディネータ協会 支援・開発委員会

1. 背景

- ITC資格制度の発展のためにITC知名度向上が最重要テーマの1つとして本格的な取り組みが必要な状況になってきている。
- ITC知名度向上のためにはまずITC実績の見える化が不可欠であり、その手段として事例が最も適している。さらに、知名度向上にはITC個人の努力に加え地域組織の力によりITC活動実績をアピールしITCの営業活動を支えることが最も効果的と考えられる。
- こうしたITC知名度向上に向けた最重要ツールの1つとして気づき事例を位置づけ、H17年度にIT経営応援隊事業の一環としてIPAが作成したものを協会が継承し、事例集として拡充するとともにITCの広報・営業ツールとしての活動を支援する。H18年度に気づき事例のフレームワークの改良、収集・活用に向けた提案を成果物として完成させた。H19年度はその実行に取り組む。

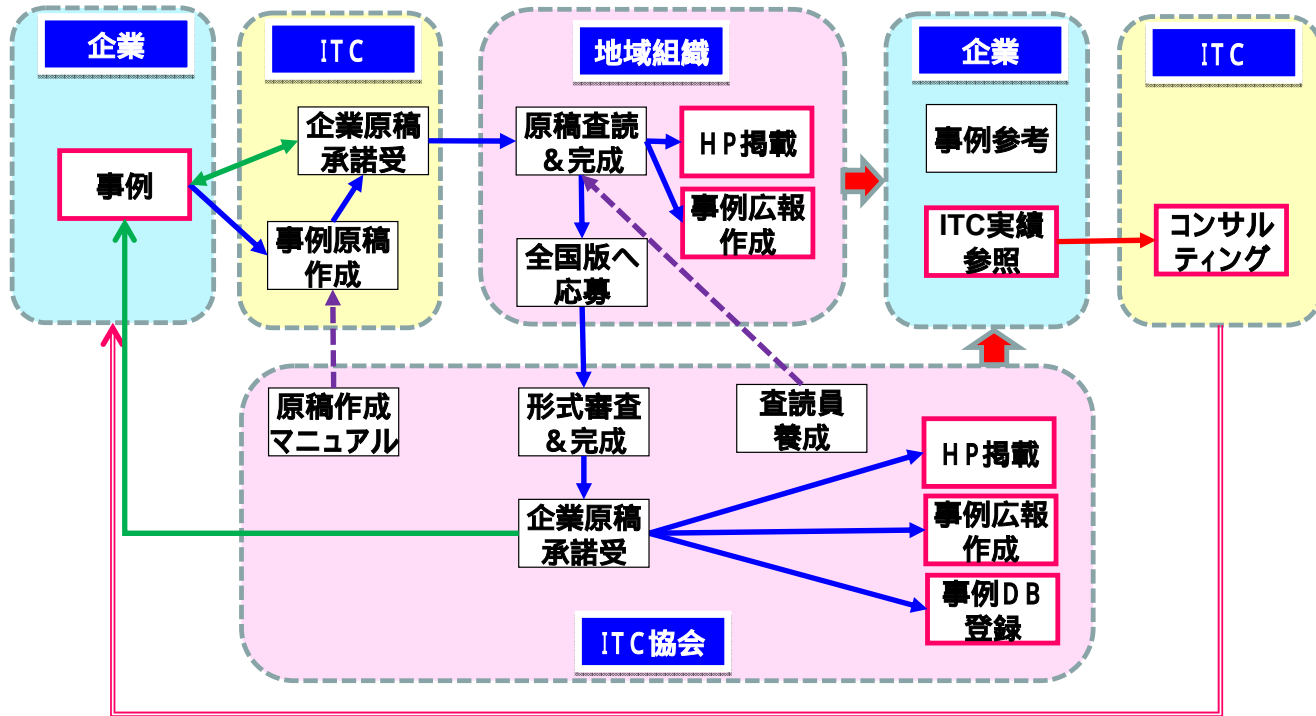
2. 取り組みの観点

- 気づき事例を地域組織の知名度向上のツールと位置づけ、事例作成要領・見本の提供、地域組織の査読員養成等を通じ、地域組織が自律的に気づき事例を収集、活用する基盤構築を支援する。
- 協会は気づき事例のデータベースを構築し、地域組織が作成した事例集を全国版として公開することにより、ITC知名度向上に加え、ITCのナレッジベースとしての活用も推進する。
- 事例集を「できるITC」の実績アピール、ITC差別化のツールとも位置づけ、顕彰制度等ともリンクすることにより先行するITCの価値を高め、ITC基盤全体のボトムアップを図る。これは育成・認定委員会を支援しつつ推進する。

気づき事例集の進め方

事例は地域組織が作成・査読し、自組織HPに掲載して活用。

協会全国版は申請されたものに対し形式審査を経て協会HP掲載・DB登録。



- 全国の地域組織に対し、気づき事例の趣旨、協会支援施策を周知し、作成を勧奨する。
- 地域組織で査読を終えたものを、組織のHPに掲載するとともに各地域で活用推進。
- 協会は査読マニュアルの提供および地域組織内の査読員養成の支援を行う。
- 協会全国版HPへの掲載は申請のあったものを形式審査し、HP掲載、DB登録を行う。

本件に関するお問合せ先:
ITC協会 事務局 菅(かん)
TEL: 03-5733-8780

こうすれば、できる！

IT経営気づき事例集フレーム (V0.7)

1. 気づき事例DBの目的
2. 事例は結果から生まれる？
3. 事例を結果からまとめる例
4. 気づき事例集の考え方
5. 気づき事例集各情報の関連
6. 気づき事例の記入要領 <応募者情報>
7. 気づき事例の記入例 <応募者情報>
8. 気づき事例の記入要領 <フェースシート>
9. 気づき事例の記入例 <フェースシート>
10. 気づき事例の記入要領 <詳細版>
11. 気づき事例データベースの検索キー

1. 気づき事例データベースの目的

1. 気づき事例データベース作成の目的

先達のIT経営の成功事例や失敗事例を提供する「気づき事例データベース」により、先達が「経営課題にどのような解決策を選んだか」、「その経営課題解決策はどのような効果があったか」、「その経営課題はどのように効率よく解決されたか」等をヒントに、中小企業の経営者に「IT経営」について気づいていただくこと、およびITコーディネータがIT経営を支援しようとする場合のツールの一つとして活用していただくこと、を目的とする。

2. 気づき事例データベースの主たる利用者と活用シーン

(1) ITコーディネータ

- ・ITコーディネータ(以下ITC)の活動ツールとする。
- ・ITCが支援した気づき事例を周知し、ITCおよび所属組織の広報ツールとする。
- ・ITCの自己啓発ツールとする。

(2) 中小企業の経営者

- ・ベンチマーキングツールとする。
- ・支援を受けたいITCの検索ツールとする。

(3) IT経営支援機関

- ・中小企業に対するIT経営の事例提供ツールとする。
- ・中小企業に対するITCの紹介ツールとする。

3. 募集事例

(1) **成果事例**: IT経営による活動成果が中小企業の範となるもの

(2) **プロセス事例**: 成果がITCプロセスガイドラインのいずれかのフェーズまたはプロセスにおいて中小企業の範となるもの

2. 事例は結果から生まれる？

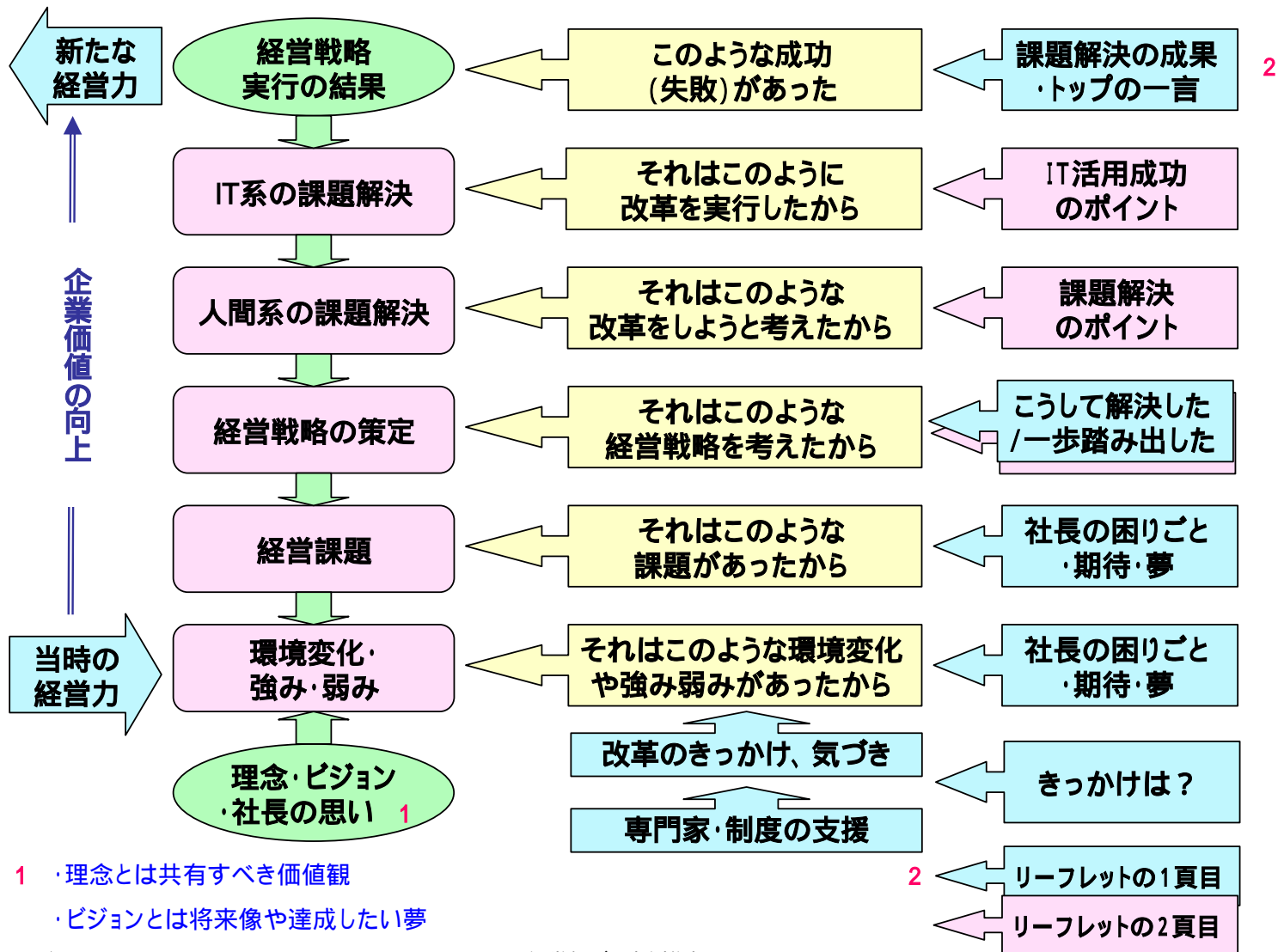
先達の成功事例も経営戦略立案が完璧で、それを戦略通りに実行したから素晴らしい成果を上げた、という例は決して多くありません。

あの有名な「デル・モデル」ですら、1999年出版の自叙伝「デルの革命」なかで、戦略が先にあって成功したというより、その成功があって、振り返ってみると、次の4つの競争戦略が躍進の原因だった、とマイケル・デルは語っています。

1. 市場に対応するスピード
2. 優れた顧客サービス
3. **最高の性能と最新かつ適切な技術**をもつ、一貫して高品質なコンピュータをカスタムメイドで顧客へ提供することへの**強い熱意**
4. **インターネットの可能性**をいち早く開拓すること

ここで言いたいことは、事例とは、結果として成功した(あるいは失敗した)ことの振り返りであり、事例の収集はその結果から始まり、次図のように、その要因を遡って編集すると整理しやすい場合が多いということです。

3. 事例を結果からまとめる例



4. 気づき事例集の考え方

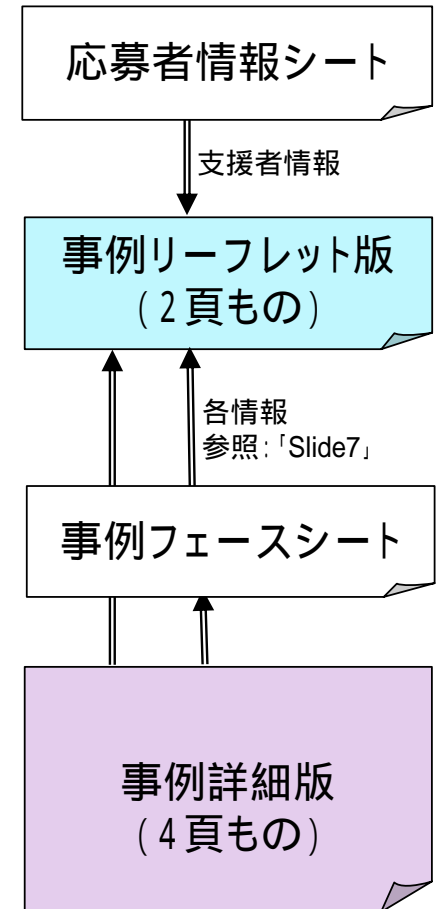
事例集は1事例毎の事例リーフレット(A41枚モノの両面印刷)とA4数頁の事例詳細版とする。

1. 事例リーフレット版

- ・文章は経営者の言葉とする。
- ・事例に関しての経営者の気づきは、自らの経験やおかれた環境によって異なったり、気づきの大小がある。全く何らの気づきがない場合もある。そこで、気づきの参考となる事例を抽出して、ITC等が経営者に説明して手渡せる形態とする。
- ・適切なる事例抽出により、1事例見開きの印刷事例集としても意識する。

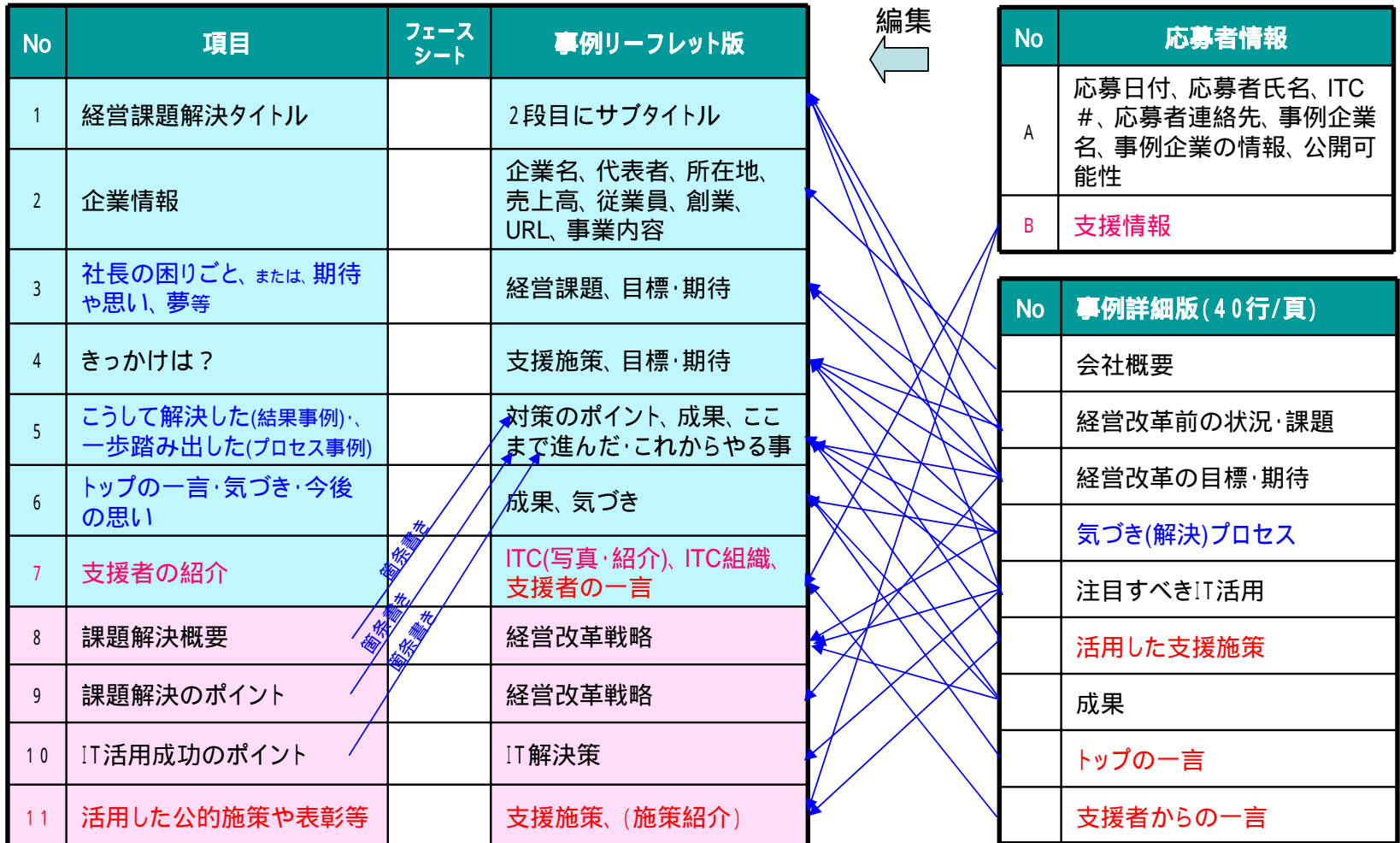
2. 事例詳細版

- ・事例応募時に経営者と応募者で記述する。
- ・事例DBとして保存する形態とする。
- ・ITCによる活用と要望のある経営者の閲覧を意識する。
- ・現事例集のP7の「経営課題」、P8の「経営改革戦略」および「ITによる解決策」を各項目記述の参考とする。リーフレットのサブタイトルや検索キーにも活用



5. 気づき事例集各情報の関連

「事例リーフレット版」は「応募者情報シート」と「フェースシート」及び「事例詳細版」から編集する。



No1～7は1頁目、8～11は2頁目、赤字は新項目、青字は変更項目

6. 気づき事例の記入要領 < 応募者情報 シート >

【応募日付】 事例評価の締め切りに連動

【応募者氏名】 経営者でも良いが、通常はITC

【応募ITC認定番号】 ITCが応募した場合に記入

【応募者連絡先】 住所、E-Mail、電話等

【事例企業名】 登記名

【事例企業の情報】 連絡担当者とその連絡先

【公開の可能性】 実名の公開(原則)の確認やセミナー等での事例講演依頼の可能性等

【支援情報】 事例の経営改革を支援した機関、支援者(複数のあり)の情報。機関名、担当者名及び連絡先、**支援施策・表彰等** 応募者が支援者であっても記入のこと

7. 気づき事例の記入例 < 応募者情報 シート >

【応募日付】

****年**月**日

【応募者氏名】 経営者でも良いが、通常はITC

****(ITC)

【応募ITC認定番号】 ITCが応募した場合に記入

0*****C

【応募者連絡先】 住所、E-Mail、電話等

自宅：〒***-**** 広島県***** 082-***-****

勤務先：有限会社***** 広島県***** 082-***-****

【事例企業名】 登記名

【事例企業の情報】 窓口担当者とその連絡先、事例のセミナー等での講演の可能性等

窓口担当者：代表取締役社長 *****

事務局 広島県*****

【公開の可能性】 実名の公開(原則)の確認やセミナー等での事例講演依頼の可能性等

講演依頼は可能

【支援者情報】 事例の経営改革を支援した機関、支援者の情報。機関名、担当者名及び連絡先等
者が支援者であっても記入のこと

応募

****(ITC) 連絡先は応募者とおなじ

気づき事例の記入要領 < 事例フェースシート >

【タイトル】 ポイントとなる経営課題解決のタイトル、経営者が読みたくなるような「キャッチコピー」で記述。

【企業情報】 事業内容は数行以下に。ここではIT活用の記述は不要。後日経営者の写真。

【社長の困りごと、または、期待・思い・夢】 本件取り組み前の課題をSWOTや現事例集P7の「経営課題」を参照して、極力箇条書きにより経営者の視点(言葉)で記述。 「経営課題」の番号(1~8)も付記

【きっかけは?】 <1.(事例)セミナー、2.相談会等、3.経営者研修会等、4.成熟度診断、5.課題解決コンサル(IT推進アドバイザー、専門家派遣、顧問契約)、6.補助金活用、7.各種融資活用、8.紹介、9.その他>等も参照しながら、取り組みのきっかけや目標や期待を経営者の視点(言葉)で記述。

【こうして解決した(解決事例)・こうして一步踏み出した(プロセス事例)】 現事例集P8の「経営改革戦略」および「ITによる解決策」を参照して、箇条書きによる経営者の視点(言葉)での記述。 それぞれ番号(1~6)も付記
プロセス事例は経営戦略のアクションプランが確定し、経営改革プロジェクトが動き出すことが最低必要条件とする。

【ここまで進んだ・これからやること】 システムの説明ではなく、経営改革の視点で、箇条書きによる経営者の視点(言葉)での記述。とくにプロセス事例では重要。リーフレットでは**【トップの一言・気づき・今後の思い】**に吸収。

【トップの一言・気づき・今後の思い】 経営者が感じたことや経営改革の途中や結果で、何に、どのような気づきがあったか、支援者への評価等を、コンパクトに経営者の視点(言葉)で記述。

【支援者の紹介】 ITC(写真、自己紹介)・ITC所属組織や支援組織等で、支援者からの一言も記述。

成果事例・プロセス事例で項目名を選択。内容はリーフレット作成時に校正します。

気づき事例の記入要領 < 事例詳細版 >

【会社概要】 会社の経歴や事業内容を記述する。

【経営改革前の状況・課題】 本件取り組み前の経営外部環境と内部環境(SWOT)や現事例集P7の「経営課題」を参考にしながら、記述する。経営改革前のIT活用状況も記述する。

【経営改革の目標・期待】 状況により、現事例集P8の「IT活用・経営改革戦略」を参考にしながら、経営改革前の課題解決に対する目標・期待(戦略)を人間系とIT系を連携させながら記述する。

【気づき(解決)プロセス】 解決にむけてのきっかけやこうして解決した・一歩踏み出した等やそのプロセスで何に、どのような気づきがあったかを記述する。現事例集P9の「気づきフェーズ」も参考に課題解決前後の気づきフェーズやIT経営成熟度診断ツールでの課題解決前後の成熟度を記述する。 **新・一部追加**

【注目すべきIT活用】 結果はどのような状況になったか、現事例集P8の「ITによる解決策」を参考に、経営課題解決にどのようなIT活用が特に有効であったかを記述する。また、事例がITCプロセスのどのフェーズに該当するかを記述する。 **新**

【成果】 その成果とはどのような経営課題の解決であったかを現事例集P7の「経営課題」を参考に、可能な限り定量的に、また、ここまで進んだ、これからやることも経営者の視点(言葉)で記述。 **一部追加**

【トップの一言】 経営者が感じたことや支援者への評価を具体的にお願ひする。

【支援者からの一言】 支援者として経営改革の当初や途中や結果において感じたこと、あるいは、気付いたことを記述する。 **新**

基本的には、経営者の言葉・立場で記述する。

気づき事例データベースの検索キー

参照キーワード	参照したい場合	備考	No
1. 事例番号順	事例の掲載順となっています	登録順	
2. 産業分類順	同業他社の事例企業を参照したい場合	日本標準産業分類を準用	
3. 地域分類順	身近な地域の事例企業を参照したい場合	JIS県コードを準用	
4. 企業規模	同規模他社の事例企業を参照したい場合	資本金、売上、粗利益、従業員(範囲コード)	
5. 企業名順	企業名より参照したい場合	50音順	
6. 経営課題順	企業の経営課題と同様な事例企業を参照したい場合	IT経営教科書の経営課題解決策関連図を適用(要コード付け)	
7. 経営改革戦略順	自社の経営改革戦略と同様な事例企業を参照したい場合	IT経営教科書の経営課題解決策関連図を適用(要コード付け)	
8. ITによる経営課題解決策順	ITを活用した経営課題解決事例企業を参照したい場合	IT経営教科書の経営課題解決策関連図を適用(要コード付け)	
9. 経営者の気付きフェーズ順	ITを活用して経営課題が解決される前後の経営者のIT経営気付きフェーズを参照したい場合	IT経営教科書のIT経営気付きフェーズ図を適用(要コード付け)	
10. IT経営成熟度	ITを活用して経営課題を解決する前後のIT経営成熟度を参照したい場合	IT経営成熟度診断ツール活用あるいは経営者自己診断での成熟度	
11. ITCプロセス	ITCプロセスの参照したいフェーズに該当する事例を検索したい場合	ITCプロセスのコード付け(複数のコードにリンクあり)	
12. ITC組織	ITC組織(各種支援組織、中小企業診断士などの支援機関の追加可)を参照したい場合	地域別にコード付け	B
13. ITC	支援を得たいITCがどのような事例の経験をしているのかを参照したい場合	ITC協会のプロフィールにリンク、複数のITCが支援した場合も個別にリンク、	B
14. 活用した公的施策や表彰等	どのような施策が利用できるかを参照する場合	地域・年度別にコード付け	B